

南伊勢町UAV(ドローン)防災活用プロジェクト

- ・新規学生対象説明会の準備・打ち合わせ
- ・古和浦地区での現地調査とUAV撮影
- ・棚橋地区での現地調査とUAV撮影
- ・ミニワークショップへの参加
・棚橋・古和浦地区でのUAV撮影と
自治会との打ち合わせ
- ・新桑地区撮影と棚橋地区現地調査・調査計画に関する学内打ち合わせ
- ・古和浦・棚橋現地調査と防災マップの作製(予定)
- ・古和浦・棚橋現地調査と防災マップの作製(予定)

2017 5 7 9 10 1 2 3

◆今年度の活動を振り返って(成果と課題)

平成29年度 CLL活動「南伊勢町UAV(ドローン)防災活用プロジェクト」では、UAVを用いて撮影した画像を南伊勢町の地域防災に活用することを目的に、平成28年度からの継続活動として取り組んでいます。南伊勢町はこれまで繰り返し津波被害を受けてきた経緯から、将来の地震災害に備えて役場の防災課や各自治会が主体となり各種防災・減災対策に取り組んでいます。それらの中でも、本活動ではUAVによって避難所周辺の空撮を行うことにより、従来よりも詳細で視覚的にわかりやすいハザードマップの作成と、特に災害弱者を中心とした地域住民の方々への避難情報の提示を目指しています。UAVの空撮画像は簡単に撮影可能であるだけでなく、画像から3次元モデルの作成も可能です。これらのデータを利用することによって、地図を普段読まない人でも直感でわかるハザードマップの作製を試みています。また本活動では、空撮だけではなく、撮影範囲を隅々まで歩き、避難場所の詳細や避難経路付近で崩れやすそうな塚などの危険箇所や、避難行動が困難と考えられる急斜面や狭い道なども現地調査を行い、ハザードマップに盛り込むことを目指しています。

今年度の活動では、南伊勢町棚橋地区と古和浦地区などをモデル地区として、自治会や防災課職員と合同で複数回の空撮と危険箇所調査を行いました。現在、調査結果をもとに地域住民向けのハザードマップの作成を開始しています。3月10日には南伊勢町内で防災に関するワークショップが予定されており、そこでの試作防災マップやUAV画像や3次元マップの提示を目指しています。今後、より地域を広げ改良を加えながら地域防災に実際に役に立つものを学生の視点から作成して、地域に発信していきたいと思えます。



特にアピールしたいポイント

- * UAVを利用した活動ということもあり、防災活動にそれほど関心がない人にも興味を持ってもらえる。
- * 学生がUAVによる空撮だけでなく地域を実際に歩いて調査を行っていることから、地域の方とのワークショップなどでも地域ごとに合わせた話し合いを行うことができる。
- * 南伊勢町内複数の地区が調査対象となっているので、防災マップの作成と共に各地区の防災設備や住民の意識調査などを行うことができる。



実施主体様の声

南伊勢町の最大の課題である、津波からの避難について、学生、教員、地域がUAV撮影による上空からの目線や、タウンウォッチングにおける地上からの目線、学生の感性による目線など様々な角度から、特定地域をクローズアップし避難対策の支援をしていただいております。新たな避難対策に繋がっています。これからもよろしくお願ひします。

